

特別支援学級知的 自立活動

【具体的な生活場面で、児童自身が課題を受け止め、各自が改善策を考える活動を通して、意欲的に改善を図る姿】をイメージした授業

二本松南小 野村 一弘

1 本題材における夢中になって学ぶ姿

時数	場面	目標	資質・能力等
1	発表	自分の得意なことをみんなの前で発表し、自信をもつ。	自分の得意なことを発表し自己肯定感を高めることができる。3-(4)
2	発言・話し合い	自分の良いところを見つけ出し、友だちから見つけてもらう。	長所に目を向けることで、自己理解を高めることができる。3-(3)
3	発言・話し合い	長所と選択しない項目から自分の課題に気付く。	長所として選択しないことが、自己課題と気付く事ができる3-(3)
4	ロールプレイ・発言・話し合い	あいさつする判断や具体的な動作を考えることができる。	あいさつのやり方や判断の仕方を知り、生活で使おうとする3-(4)
5	ロールプレイ・発言・話し合い	ルールを守る理由を考え、常に意識する大切さに気付く。	ルールを守ることが、結局自分のためであることに気付く3-(4)
6	ロールプレイ・発言・話し合い	話を聞く大切さに気付き、よく聞くための方法を考え、日頃から実行しようとする事ができる。	話を正しく聞いて、日常生活を安心安全に送ることができる6-(5)
7	ロールプレイ・発言・話し合い	整理のタイミングと具体的な方法を考えることができる。	整理整頓して、日常生活を安心安全に送ることができる6-(6)
8	ロールプレイ・発言・話し合い	自分の思いばかりを優先せず、仲よくする方法を考える。	友達と仲良くして、日常生活を安心安全に送ることができる6-(7)

2 本時における研究の視点

視点Ⅰ【見方・考え方を働かせながら学びを自分事として捉える指導の工夫】

○ これまでの学習を振り返り、考え方の参考にできるようにする。

○ 20枚の「よいところカード」からこれまで自分のよいところとして選ばなかったカードは何かを考えさせ、それらが自分の課題であることに気付かせる。



○ これまでに学習してきた内容を確認し、まだうまくできていないのでどうすればよいかを動作化したり、話し合ったりした。

◎ これまでに学習したこと

- 相手に顔とへそを向ける
- 足べったん
- おなかと机にグーっ



○ これまでに学習した内容だけでは、まだ改善できていないので、どのような改善策があるかを見童になげかけた。見童は、教師が提示した例などを参考にして

- ・てわすら（物いじり）しない。
- ・集中する。

などを挙げることができた。ただ、本時で一番大事な「相手に心を向ける」ことに気付いていないので、教師から提示することにした。

視点Ⅱ【ロールプレイにより実感し、考え、自分なりの表現方法で示すことのできる工夫】

○ ロールプレイ、キーワード「心をむける」、キーワードをイメージする「ハートのイラスト」等を使って、実感できるようにする。

○ 「相手を意識する」ことを「心をむける」と表現した。ハートのイラストと動きで、「心をむけて聞く」ことが大切だということに気付くことができた。

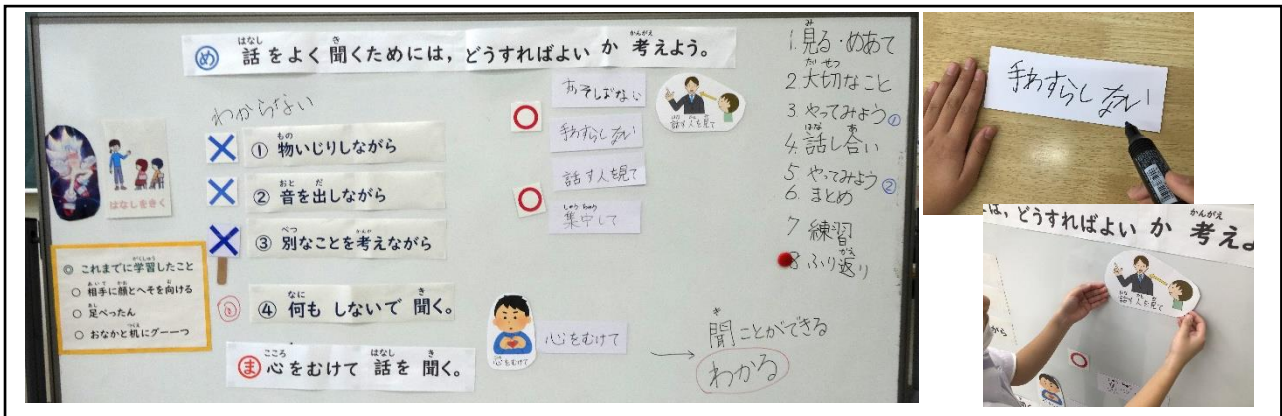
話をする
人に心をむける

話をよく聞くためには、どうすればよいか考えることができたか

話をよく聞くための練習をがんばったか？

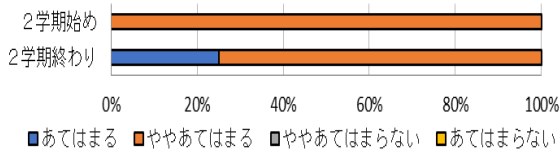
文で書く
こころをむける

★板書を作る【本時のねらいに基づいた板書等の作成】

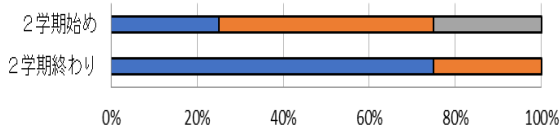


3 アンケートの結果から

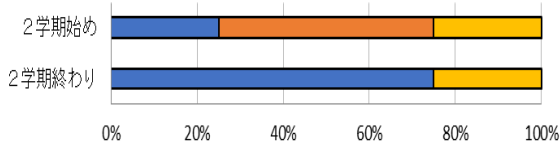
1 自分の目的をもってとりくみましたか。



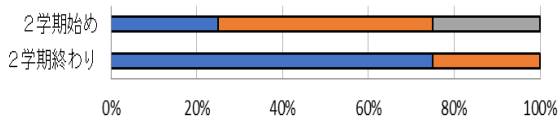
2 「こうやるといけな？」と思ってできましたか。



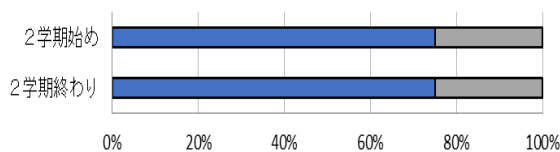
3 友だちに伝えたい、友だちの考えを聞きたい、と感じましたか。



4 授業でできるようになったこと、わかったことはありましたか。



5 もっと学んでみたい、調べてみたいと思いましたか。



4 考察【○成果 ●課題と改善策】

【視点Ⅰ】

- 自分の生活を振り返っての課題だったので、自分事として意欲的に考えることができた。
- 既習学習内容なので、ロールプレイを取り入れることで学習が成立したが、目新しさがなく6年生は退屈そうだった。もう少し思考を必要とする内容にすればよかった。また、より自分事として考え取り組むようにするために、このカードを選んだ本人に質問する方法も考えられた。

【視点Ⅱ】

- 例示やロールプレイを活用することで、課題を理解し、状況を実感して考えることができた。
- 自分の考えの表現方法を子どもに選択させることで、無理なく表現することができた。
- 「心をむける」というキーワードをハートマークのイラストと動きを同時に提示する（視覚的提示の工夫）ことで、児童は具体的に正しく聞く姿勢を理解することができた。
- できないことを取り上げるより、「こうするとできた」というプラス面に気付かせたい。

【その他】

- 「よいとこカード」を活用して、無理自己課題を見つけ出すことができたのは、よかった。

実際の指導案はこちらへ